

# 地域での見守りに関するアンケート結果

## 【アンケート実施概要】

名 称：地域での見守りに関するアンケート

対 象：佐倉市民生委員・児童委員

回答期間：令和2年12月4日～令和3年1月15日

## 【配布回収数】

配布数： 209

回収数： 148（回収率 70.8%）

受け持ちの地区はどのような地域ですか？

住民の半数以上が住み始めて概ね10年未満の住宅地	4	2.7%
住民の半数以上が住み始めて概ね10年～30年経っている住宅地	54	37.0%
住民の半数以上が住み始めて概ね30年以上経っている住宅地	74	50.7%
農地や農家が多い地区	14	9.6%

1 民生委員活動における見守り活動の様子についてお聞きします

1-①見守り活動において悩みはありますか？

ある	120	83.3%
ない	24	16.7%

対象者が増加している	76	35.8%
担当地区内のどこにどんな人が住んでいるか把握しきれない	80	37.7%
閉じこもりがちな高齢者が増えている	27	12.7%
虚弱の人が増えている	11	5.2%
どこに相談したらいいかわからない	4	1.9%
その他	14	6.6%

<その他回答>

1. インターホンがない家。あっても門がしっかり閉まっていて、インターホンが中にある場合など。電話に出られないこと
2. 関心が無く、受け入れたくない、自分に関係ない、他人ごとである等であるのでそっと見守るくらいが現在は限界
3. 高齢者夫婦や1人暮らし
4. 留守で会えない方がいる
5. 民生委員へ悩み事を話したがない
6. 表札がない家がある。最近では家電の契約を解除している人が多いのか、自治会の名簿にTEL表示のない家が多くなってきた
7. 耳が遠く、訪問に気付いてもらえず、相談の上鍵を預かったことがある
8. 訪問しづらい
9. 居住存在が不明な家がある
10. 地域の方は、プライドが高く中々相談に来ない
11. 留守宅が多く、転居、外出中、死去の判断が難しい
12. 高齢者名簿の登録を希望しない人の見守り方法
13. 2つの集合住宅(マンション)が把握しづらい
14. 世帯数が多く、見守り活動が困難
15. 所帯の自治会加入率が20%を切っている

1-②見守り対象者の訪問において悩みはありますか？

ある	93	64.6%
ない	51	35.4%

閉じこもりや拒否等により面会が困難	28	21.5%
難しい相談を相談するところがない	5	3.8%
訪問時の話が長くなる	31	23.8%
どこまで対応したらいいかわからない	44	33.8%
その他	22	16.9%

<その他回答>

1. 訪問したら、転居や施設入所して後日判明が多い
2. その都度悩むが、困難と感じた場合、先輩民生員、市役所、包括、社協などなるべく多くへ相談し、自分で抱え込まないようにしている
3. 独居、自立の生活はされているが、何年もお風呂は故障して入っていない、家の中は新聞等が山積み、洗濯機も仕え葉に。手助けを申し出るが「大丈夫」とのこと。どこに相談したら良いかと常に心配している
4. どこまで介入して良いのか分からない
5. 用事がある時以外は訪問をしていない
6. 足腰の弱い対象者への訪問で、玄関までの行動に難があるため、訪問しづらい
7. まだ信頼関係が薄い
8. 活動1年で対象者が把握しきれしていない
9. 体調不良の場合、医療機関の意見を聞きたいが現状では対応不可
10. 1人でも多くお会いしたいと思うが、今コロナで地域行事も中止等で心配の面もある
11. 高齢者名簿の登録を希望しない人は、気にかける方法しかない
12. 民児委員を避け、嫌う傾向がある。自分に何か問題があると思って接してくれるのが難しい
13. 対象者が多く見きれない
14. 高齢者でないが、親が亡くなり、50代位の引きこもり世帯の対応
15. その都度対応が変わるため、色々な所に聞きに行く
16. 訪問の時間帯やタイミング。また訪問は希望してないのではと気を遣う
17. 電話でも訪問しても、コミュニケーションできない人がいる
18. 1人暮らしのはずの高齢者が子家族と住んでいた等。実態を把握しきれない
19. 相手の立場に立って活動できているか、私自身心配してしまう

1-③見守り活動において関係機関等への連絡頻度が多いのはどの機関ですか？（複数回答可）

佐倉市	64	20.0%
地域包括支援センター	113	35.3%
社会福祉協議会	47	14.7%
家族、親族	26	8.1%
自治会・町内会	39	12.2%
警察署・消防署	3	0.9%
介護保険事業所	17	5.3%
その他	11	3.4%

<佐倉市>

高齢者福祉課	54	54.0%
社会福祉課	36	36.0%
障害福祉課	6	6.0%
その他	4	4.0%

<社会福祉協議会>

市社協	31	67.4%
地区社協	15	32.6%

<介護保険事業所>

ケアマネージャー	12	92.3%
ヘルパー	1	7.7%
デイサービス	0	0.0%
その他	0	0.0%

<その他回答>

1. 民生委員
2. 見守り対象の近所、隣人
3. 過去7年間で4,5回くらい相談に伺った
4. マンション管理組合、管理人

1-④今後の地域の見守り活動に必要なことは何だと思えますか？(複数回答可)

自治会、地区社協との連携	108	50.2%
(民生委員の)見守り活動のサポート役	42	19.5%
専門機関等明確なつなぎ先	45	20.9%
その他	20	9.3%

<その他回答>

1. 包括と連絡・相談
2. 家族とのつながり
3. TEL 等の連絡手段の把握方法
4. 配食ボランティアや見守り協力事業者との連携
5. 隣近所
6. 地域住民の助け合い意識
7. 地区社協は毎年行事が決まっており、見守りのサポートにはなっていないのでは
8. 民生委員と高齢者の個々の新身な関係の構築
9. 隣近所の日常的な声かけ・見守り

1-⑤ 1-④の質問で☑した項目の理由をお書きください

1. 地域住民に活動内容を理解してもらいたい
2. 高齢化の進行に伴い、民生委員1人の情報収集には限界があり、自治会などの協力は欠かせない。また青森県弘前市のような民生委員をサポートする体制も必要かと思う
3. 隣近所の方はよく知っている。また、あまり外に出ない人でもデイサービスに行っていたりするので施設内で様子を伺えたらと思う
4. 町内会の情報が必要(また逆も)
5. 各地区でのボランティアの方、朝通学のパトロールを何人かで行っている。帰り道、シャッターが開いていない、戸が閉まっているなど気にしている方々がいる
6. 民生委員だけでは対応できない場合もあるかと思う。町内会の役員さんなど多くの方の協力を得た方が情報量も多くなるし目が届くようになるのではないか
7. マンションなので近隣のつきあいや居住者が誰であるか把握できない。オートロックなので何かあっても住居内に入ることができず、見守り等は不可能である
8. 特に自治会の会長の任期が1年~2年と短く、また隣の自治会との繋がりがなく、連携しづらい。常に困っている。
9. 30年以上住んでいる住宅地だが、近所の付き合いがない隣の家のことを聞いても知らない。もっと近所の付き合いをしてもらいたい。緊急・休日の速やかな連絡体制
10. 高齢者の増加により状況把握には自治会との情報交換が不可欠。マンションによっては自治会組織がないケースがあり情報も入らないのは難しい

11. 後任者との引き継ぎが円滑にでき、後任者も円滑な活動ができると思われる
12. 近助という言葉のように、自治会民生委員が把握状況をお互いに共有することが大切だと思う
13. 日頃より見守り活動において、自身の経験から3つの目が必要と考える。3つの視点より連携をしたり、民生委員も1人で悩まず活動したい。
14. 自治会そのものがなくなりかねない状況。1年ごとに役員を担当するように以前はなっていたが、高齢者も増えておりやる方がいない現在は何年も継続中で、手当も3~5万にはしたが、誰かいれば変わりたい等で協力や連携は不可能。
15. 対象者の迅速な発見と必要な支援策を見いだすため
16. 1.新しく越された方は、町内会に関わりたくない方が多い。2. 見守り訪問でも、居留守に出てきてくれない方がいる 3. 私は分からないことが多いので包括に相談している。4. 自治会、町内会の組長と日頃から話をする
17. 横の繋がりによる情報がとても重要であり、かつ有効であるため、当地区は班単位迄組織化されているので班長さんへの呼びかけが大切だと思っている。機会(総会、班長会議、交流会など)があればその旨を発信しているが、もう少し積極的な関与があっても良いかと思われる
18. 組織の仕組みを利用するため
19. 民生委員は1人暮らし、高齢者の相談や包括への繋ぎ役だと思っている
20. 見守りネットワークが手厚くなると良い
21. 身近な人の方が見守りやすい
22. 1人で生活している人が増えて行く中で、息の長い見守りを行っていくためには、近隣の住民の協力がないと効果的な見守りはできない
23. 自治会の中での見守り、近隣の気づきで助けられている。地区社協支えあい活動の中での見守り、変化(認知症)の気づき
24. 高齢者台帳更新などある方は訪問しやすいが、特にない方は行きづらい
25. 民生委員1人で回るのは大変。回りきれないのでもう1人補助としてサポート役がほしい
26. 窓口を統括する中心になるものがほしい
27. 包括で把握している要介護等は、守秘義務からか教えてもらえないことはない。訪問して初めて要介護だった、施設に入所と言うことが多い。もう少し、上場も開示があっても良いと思う。これは、児童においても同様のことがいえる。(専門機関、児童青少年課等)
28. 向こう三軒両隣、身近な人たちとの繋がりが気づきを早める。日頃の何気ない付き合い、気遣いが大切。
29. 自治会の組織として「見守りネット」を作ることをおすすめする。要支援者を近隣の支援者がマンツーマンで安否確認の見守りをする。異常が生じた場合、民生委員に連絡し、対応するような組織作りが必要
30. 自治会ニュースで会員の方の訃報も、ご家族の申し出で公表されない。恐らく高齢者の方と思われるが、見守り活動が必要と思われ、自治会と連携が必要。地区社協の高齢者福祉部の食事会は、今年ではできないが、地域の方の楽しみになっている。民児協定例会に社協の方に出席いただき、コ

コロナ禍で困窮されている人が福祉資金の申請をされている事を発表してくれている。地域の方で困っている人を見つけたら紹介してあげたい

31. 民生委員とはいえ、一個人が担当地域の情報を把握することには限りがある。従って、できることがあれば自治会、町内会と連携し情報入手をし、見守り活動に反映できればと思う
32. 見守り活動の強化を図るには「多くの組織の連携・協力」のもと各組織の持つ強みや資源(組織力・発進力・支えあいサービス)等を集約し、活用する事が重要である
33. 自治会が一番身近で知人もいるが、アパートに住んでいる方は自治会に入っていない方も多く、民生委員や地区社協で行っている支えあいの知人を頼るようになると思われる
34. 高齢者の悩みは主に健康的なことと日常的に対話できる事による安心感がある。このことから隣近所のコミュニケーションが大事で自治会との連携は必要不可欠である
35. 自治会の加入率が高く、班長(組長)になると、所属している組(班)の状況がよくわかる。また、地区社協の支えあい活動で支援しながらいろいろな情報を得ることができる
36. 見守りを必要とするか否か、該当する世帯を発見する・気付く手段が重要に思う。早期に気付くことで重大な問題に発展しないように対応できる可能性は高まる。早期の気付きの手段としては、人と人の会話が重要。私たちの自治会では、班長さんが分担して毎年2回の集金手続きで訪問し、その際に手続き上の会話に加え、集金でお金のやり取りで簡単な計算が成される。そんなやり取りの中で、問題の有無の気付きとなることもあり、その際の『気になる世帯』の様子を吸い上げ、うまく共有していくことは、見守り世帯の発見にも結びつき、自治会の班長→ブロック長→運営委員→自治会会長へとの情報のネットワークと、民生委員の連携はゆるい見守りのスタートを円滑にする上で重要
37. 独居の方でご本人の現状をどう思われているのか、親族連絡先の方に伺ってみたいが、出過ぎた行動ではないかと迷ってしまう事が度々ある
38. 自治会の役員は、自治会に分散しており、自治会内の情報、移転や入院等共有頂ける。児童委員の活動は、学校と定期的に情報交換しているのでやりやすいが、高齢者については包括が各ケアマネとの定期的な打ち合わせ等はあるのだろうか？あれば、学区でも共有できる仕組みが必要
39. 自治会との連絡、情報の相互提供がほとんどない
40. 自治会の長に相談したり、包括にはお世話になっている。包括の方の対応が早くて感謝している
41. なるべく自治会に参加しているが、住人の日常の様子がわからない。声はなるべくかけている
42. 地区社協や専門機関等でないと対応できないことが多く、民生委員1人では何もできないことを痛感している
43. 自治会組織は住民に最も認識されている。(民生員よりも)(地区社協は対象外)
44. 近隣の方が、日常的な様子の変化(雨戸開閉、点灯、洗濯物等)に一番気付く。自治会の見守りパトロール(登録)、地区社協の支えあいサービス、地域のサロン活動、配食ボランティア等様々な方向からの情報を連携することでご本人に必要な支援を行えると思う。高齢者の状態は変化も大きいので多方面からの見守りが大切だと思う。配食事業者(民間)から独居高齢者のお弁当の受・否の連絡を頂いて安否確認や状態が確認できたこともあった。
45. 自治会の中に民生委員と活動を共にしてくれる部署を作ることを提案。自治会長は理解を示してくださったが、実施するには行政の後押しがほしいとのこと

46. 地区社協と自治会個人との連携については説明がほしい
47. この1年は自治会との連携がほぼ無かった。見守り対象者についての連絡・報告等自治会から何もなかったが、近所で民生委員のサポート役を担ってくださった方からの報告が役立った
48. 専門的なスタッフが配置されている
49. 自治会長がほとんど状況把握しているので相談しやすい。  
高齢者が近所にいる福祉委員に平素の状況を見守って頂く事がある。自分が留守で動けない時にお願いしたことがある。
50. 民生委員と自治会の協力が無いために見守り活動に対しても難しい状況にある。住民も民生委員の存在を理解できていないことを痛感している。高齢者が多大になるため難しいエリアにいる
51. 個人情報の保護が重要視されている環境下で、誰がどんなサポートを必要としているかの情報把握が困難。民生・児童委員が強引に踏み込んでいく権限を持たない中で、本人から又はその周辺から民生・児童委員や市に情報が届くことが必要。
52. 健康で元気な方は社会性があり、自らの足で行きたいところに行きたい時に移動できるので諸問題をある程度自分で解決できる・これは男女ともに同じ傾向にあるように思う。しかし、年を重ねるごとに、特に男性は1人である時が多く閉じこもりになっていく例が多い。合い言葉は「遠くの親戚より、近くの知人」だと思う。自治会、地区社協の小さい範囲でお付き合いがうまく組織されていないから
53. 自治会の会長及び役員は、2年毎に替わる為、密接な関係を築く事により重要な情報が早く入ってくる。専門機関等の連絡先が分かっていると、市を通さずスピーディーに対応出来る
54. 自治会の住民、役員等が対象者の詳細な実態を把握している
55. 1人では無理なことが多く、自治会の推薦によっているので協力なくては、活動は無理と感じている
56. 自治会に加入しない世帯も増えており、回覧板で隣人の様子を知る機会も無くなっている。しかし、近隣住民がお互いに気に掛け合って異常があったときに早く察知できるような地域が理想
57. マンションなので隣人とのつながりがコロナで益々なくなった。自治会活動も縮小。30年以上経っている住宅なので、自治の役員も大変苦慮しているが、見守り活動のサポート役としてもお願いしたい
58. 介護が必要と判断したら包括に繋げたい。経済的に困っているよう。福祉課に相談したら良い。そうした不安や悩みを打ち明けてもらえる関係が構築されていなければ頼ってもらえない
59. 不在理由が不明な場合、自治会、市、市社協、包括等と連絡が取れれば解決できる場合もあると思う。医療機関との連携方法が分からないので見守り活動としては力及ばない
60. 自治会が一番地域、隣近所の事を見ている。声かけも気軽にできる。民生委員もかなりの把握はできる。個人差がある。
61. 自治会・町内会、民生委員を中心とした、地区社会福祉協議会、各担当部署の個人情報を遵守し、連携体制の構築が重要と考える。(自治会町内会は、高齢者名簿、災害時等支援者の名簿を所有していない状況である。共通の名簿を所有して、各機関の連携を強化する
62. XXXXXXXXXX自治会員の皆様は、今のところ経済的にも常識的にも大変しっかりしていると感じる。自立・自律しているため、これから高齢化が進むので自治会館を活用した昼食会、体操会、麻雀会をと進めていく中でコロナに。
63. 見守りが必要な方の状況について自治会の役員さんが把握していることが多いので自治会との連携が大切である。総会で民生員の紹介→民生委員か役員・班長との情報交換が可能、顔が分かる

事で相談しやすくなる。日常的には会長より連絡を頂いている。年1回、1人暮らし高齢者の名簿を頂いており、それをもとに訪問している。

64. 地元住民による支えあいが一番大切
65. 自治会を2カ所担当しており、居住自治会とは連絡を取り合っているが他自治会へ総会、役員会へ出席したい旨を連絡しても7年間で総会開催は開いていない。決められた行事を開催しているが、見守り活動とは違うのでは。もっと福祉委員の方と民生委員とで相互応援というところが見守りなのでは
66. 何かあると包括に相談している。高齢者の方にも包括に相談するように話をしている。しかし、民生委員として持っている情報が少ないと感じているので包括以外の繋ぎ先としてどのような専門機関があるのか教えてほしいと思う
67. 管理人在住のマンション区域の活動につき、1. 対象者との接触機会を増やす諸行事での連携2. つなぎ役としてマンション内各団体と方法共有する3.4 単独・老々の居住者が増加中。制度・仕組みの活用の充実
68. ①現状の見守り活動(高齢者台帳、包括、自治会、老人会による)の評価と現状把握②①の伸長と短所の改善を図る③情報共有④役割分担と連絡崎の明確化
69. 明確な役割分担
70. 民生委員・児童委員を10年間活動しているが、自治会の班長等及び包括の相談員に助けられた。最初の訪問は、信用及び信頼されていないので自治会の班長に同伴をお願いしている
71. 今でも自治会や高齢者のクラブ等と連携している。今後も一緒に見守っていきたい
72. 造成から50年近く経過した団地なので、少子高齢化が顕著な地域(283世帯)で、今年度の災害時要援護者調査表(自治会独自)で、一人暮らし高齢者、支援の必要な世帯が併せて37世帯、75歳以上の住民がいる世帯も4.5割に達している。これだけ、一人暮らし高齢者が増えると、民生委員一人で見守るのは無理で、自治会の高齢者クラブ、防犯、防災等の活動に積極的に参加、自治会館での居場所(にこにこ喫茶、わくわく体操等)の中でもサポートしてくれる仲間を増やしている。住民同士がつながり、見守る環境を整えることが必要で、近隣の方が、情報を伝えてくれるので助かっている。
73. コロナ渦で訪問活動を控えているので、見守り活動が十分に行えていないから
74. 自身が自治会会議に参加していないので、詳しい情報が入らない。
75. 対象者の経済状況、近隣住民との親密度、性格等を考慮し色々なレパトリーを用意する。玄関先で住人の生活感をチェックできる装置も必要になるかも。民間企業等に加入すれば見守りしてもらえ、ローコストの手軽な手法があると思う
76. 中間組織にあたる包括や市社協との連携が重要
77. 対象者が少ないので自治会(役員)との連携で足りる
78. 様子をよく知っている地区の人たちが地区の行事やサービス等を緩やかに何回も声かけをして参加利用を促すようにしたらよいのではないか
79. これまでの訪問では、特に生活に不自由を感じている方はなく、訪問や見守りの必要が感じられなかった。見守りを希望する方は届け出るなどの方法はどうか

- 80. 見守りの対象者が確実に多くなっているため専門機関にお任せした方がいいと思う
- 81. 役所を含め横の連携が少ない
- 82. 自治会にて広く町内会へ呼びかけ。住民同士の見守り声かけ・ゴミ出しの手助けが必要。特に独居老人にとって会話が大事

1-⑥コロナ禍における見守り活動で、実際に苦慮した点は何ですか？（複数回答可）

直接対面することができないため、高齢者の状況を視覚等で確認できない	49	24.6%
訪問すること自体、やめておこうか考えてしまう	46	23.1%
訪問する頻度を減らさざるを得ない状況となり、高齢者が気がかり	76	38.2%
その他	28	14.1%

<その他回答>

1. 電話連絡を多くする。電話をかけ元気かの判断をしている。明るい声といたわりを込めて接する
2. 訪問しないと対象者の近所の人たちが、比方がコロナになったと思われ風評される
3. TELに出ない、会える状況にない。困っている
4. 基本的には面談を主としているが、時短時間を心がける
5. 訪問先世帯で対応される方が、マスクをしないで玄関先に出てきてお話をされるケースも多々あり。こちらが充分に気をつけても、高齢者側にマスクをされない対応から、コロナリスクは心配であり、コロナ禍における対応の難しさを感じる
6. 330世帯あり、全部把握できない。危険なことは近所の人との連絡が頼り。地域全体で見守る必要がある
7. 電話をしても振り込め詐欺対策のためか出られない方が多く、声を聞いての見守りもできないことがある
8. 電話で安否確認したり、心配な方はマスク、消毒液を持参して距離を保って話を聞いている
9. 新任なので電話対応がしづらかった
10. 手紙、メモ等での連絡、お伺い
11. 地域の行事等が中止されていたり、会う機会が少なくなっている
12. 新規登録先の面談時間が長くなる
13. 根郷地区社協の友愛訪問年2回、他年3回は直接訪問する
14. インターホンを押し、声かけしているがその前にドアから出て話したが。急いで出よう俊転倒しないか、お話が長くなり途中で終わらせるのが気の毒

1-⑦コロナ禍での見守り活動を踏まえ、感染症まん延期において望まれる見守り方法は何ですか？  
(自由意見)

1. 訪問しなくても電話による安否確認ができる。携帯番号を伝えておけば留守電はなくなる
2. 手紙をポストに入れたり、昼間近所を歩き洗濯物など日常生活がスムーズにできているか確認
3. 近所の方々の会話、あいさつ情報。道で会えば必ず声をかける
4. ケアマネージャーやヘルパー、デイサービスの方々の出入りが多く、直接民生委員としての接触等はないが、これらの方々の全体的な把握ができないのでできるだけ管理人等から情報を聞くようにしている
5. 電話がいいと思うが、なかなか出てくれない。するとまた心配が多くなり夜電気が付いているかと見に行くようになる
6. 高齢者の場合は会話を望まれる方がほとんどなので、電話等で生の会話をする事が良いのではないか
7. 相手の望む方法で見守りたい
8. 今年で1年になるが、未だに電話に出てくれない人が3人いる。電話にできるまでかけるか迷う  
オレオレ詐欺を警戒されている、TELでは耳が遠い人もいて難しい
9. 直接対面しないと、顔色、歩行等状態確認ができない
10. 電話等で連絡を取りたいが、電話が分からない人が多い。高齢者台帳を書いてもらっている人は電話できるが
11. 直接訪問できなくても、繋がっていることは伝えたい。ありがとうなど明るく前向きな事を毎日お話する
12. 新聞、牛乳配達、配食弁当等々の声かけ、手渡しや受け取りなしで新聞、牛乳、弁当が残っている時の情報を包括や民生委員へ連絡をもらう
13. 電話でお声を聞こうと思ってもなかなか出られなかったり電話があるところまでの導線が心配になったり(足の悪い方が多い)難しい
14. コロナに対する意識が個々で違うためどう接して良いかわからない
15. 過度の自粛は高齢者の状況が把握できなくなる。玄関先でマスクをして数分話すことで感染のリスクが高まるとは思えない
16. コロナ禍であっても、熱中症予防の為に訪問は欠かせない。暑くなる頃に飲料とパンフを届けているので(長年続けている。コロナだけではないことを伝える必要がある)自身の体調管理を十分に行うこと
17. コロナの中では世の中全ての人が大変な時代を迎えているが、対象の方々の近所の方の情報が大事だと思う。知ることが難しいエリア
18. 感染拡大のため訪問を遠慮し躊躇してしまうので、個人情報の問題があると思うので難しいが電話番号がわかると良いと思う。民生委員のパンフを再度投函しようと思う
19. 当活動範囲の特性から、マンション内の各活動役員、管理人、出入業者、近隣医療機関等々からの情報入手、共有に注力
20. 自治会の役員会において高齢者台帳の登録についてサポートをお願いしている。特に班長には該当者の連絡をお願いしている
21. 農村の為に、直接訪問し確認する
22. 自治会(班長⇄ブロック長⇄会長)との連携を強め見守り体制をつくる。しかし、自治会の役員は任期一年なので引き続き協力してもらえ体制をつくらざるをえない

23. 高齢者でもできるテレワーク等の機器が必要になると思う

## 2 見守り対象者(今後見守りの必要な方)の状況についてお聞きします

2-①担当地区でサービス等に繋がっておらず、見守りが必要な方を把握されていますか？

いる	62	44.0%
いない	79	56.0%

2-②定期訪問している高齢者以外に今後訪問が必要と思う高齢者は何人くらいいますか？

いない	6	4.3%
1人～5人	65	46.4%
6人～10人	17	12.1%
10人以上	7	5.0%
わからない	45	32.1%

2-③どのような高齢者の困り事に実際に支援したことがありますか？(複数回答可)

買い物	47	11.1%
ゴミ出し	40	9.4%
安否確認	79	18.6%
家の周りの環境整備	50	11.8%
経済的な不安	41	9.6%
身体的な不安	59	13.9%
将来への不安	34	8.0%
家族関係	42	9.9%
その他	33	7.8%

### <買い物 内訳>

移動手段	25	69.4%
重たいものが持てない	11	30.6%

### <その他回答>

1. TVが映らない。家具の移動。照明交換
2. 病院や高齢者クラブ等の催し物の付添い、服薬チェック
3. 世間話。ちょっとサービスで目が不自由なので公文書を読み上げる
4. 台所の整理、ごみ処理
5. 草取り
6. デイサービスを希望する方を包括に相談した。見学同行。希望した施設に入れた
7. 奥様の葬儀費用と自信の葬儀代予約、契約について
8. シルバーカー故障による代替品の申請、家の修繕
9. 隣人トラブル
10. 野良猫騒動

### 2-④見守りが必要な方を地区社協、ボランティア活動等に繋げたことはありますか？

ある	106	75.7%
ない	34	24.3%

サロン活動(100円喫茶等の地域のたまり場)	45	22.2%
高齢者食事会	55	27.1%
支えあいサービス	45	22.2%
配食サービス	42	20.7%
その他	16	7.9%

### <その他回答>

1. 買い物支援サービス
2. 防犯パトロール時の声かけ他
3. 紹介したが「そのような所には行きたくない」と断られた
4. 体操、敬老会
5. 市シルバー人材センター(ヘルパー清掃)
6. 歴史が好きな二人を文化財ボラに誘い活動中
7. 地域包括支援センターを紹介

3 地域のゆるやかな見守り活動の必要性についてお聞きします。

3-① 地域にゆるやかな見守りは必要と思いますか？

はい	127	89.4%
いいえ	3	2.1%
わからない	12	8.5%

3-② ①で「はい」と答えた方へお聞きします。地域の見守りで中心になるのはどの団体等になりますか？（複数回答可）

隣近所	107	31.8%
自治会、町内会、区	104	30.9%
地区社協	35	10.4%
民生委員	86	25.5%
その他	5	1.5%

<その他回答>

1. 地域で立ち上げたサークル
2. 介護施設
3. 地区社協も地域差があり、地域と密着している所は良いのではないかと。自治会も同じようなことが言える
4. 地域包括支援センター

3-③ ①で「いいえ」と答えた方へお聞きします。それはどのような理由ですか？（複数回答可）

民生委員の見守り活動で足りていると思うから	2	12.5%
ご近所同士のつながりの中で見守り体制が構築されているから	6	37.5%
地域のゆるやかな見守りがどのようなものか分からないから	6	37.5%
その他	2	12.5%

<その他回答>

1. 監視にならないよう気配りのため
2. 高齢者本人の子どもや親戚が面倒を見ている事が多い

3-④ 3-②で☑した団体等にゆるやかな見守りの一環としてやってもらいたいことは何ですか？  
(複数回答可)

ゆるやかな見守りのみ	15	9.6%
ゆるやかな見守りと異変があった場合に専門機関や民生委員等への連絡	103	65.6%
定期的な訪問による見守りと異変があった場合に専門機関や民生委員等への連絡	34	21.7%
その他	3	1.9%

<その他回答>

1. 民生委員及び自治会役員会との定期的な会合は今まで以上に頻度高く、意味のある意見交換を計画し、ゆるやかな見守りの具体化も計画したい

3-⑤地域の中にゆるやかな見守り活動に協力してくれる方はどれくらいいると思いますか？

いない、ほとんどいない	15	11.1%
人数は少ないけど熱心な人はいる	76	56.3%
たくさんいる	13	9.6%
わからない	31	23.0%

3-⑥民生委員としてゆるやかな見守りとどのような連携体制を望みますか？

1. 数ヶ月に一度、近況報告の場があったらお互いに情報交換ができ、共有ができて良いと思う
2. 自治会・町内会と連携が必要。班長会議に出席している。自治会役員会に参加して隣同士の声かけの大切さを呼びかけたい
3. 千成地区で家の前を救急車が通ると外に出てみる。近所に止まったとき見に行った。私の担当の方だった為、急いで家に帰り名簿を救急の方に見せて家族の方にすぐ連絡、かかりつけの病院も記入してあった為すぐに発車した。その他1回あり。
4. 独居老人のみの場合はデイサービスや福祉施設の方々との交流等自治会や管理組合と連絡、連携がとれると良いのではと思う。民生委員が誰かとどこに住んでいるかは一応知らせたがほとんどの方は知らない状況であり、自治会とか理事会に出席して連携を取ればと思う
5. 1人暮らしの方でも見守りは結構ですとの方が多いので、近所の方が何となく見ていただいて民生委員に連絡してほしい
6. 異変があった場合に専門機関等に素早く繋げられるような強固なネットワークを築いておきたい
7. 現在も自治会(主に班長)、高齢者クラブと常に連絡を取り合っているので今の時点では情報は割と把握している
8. 民生委員として地域活動をする中で知り合った方のつながりを大いに活用する

9. どこまでやるのかわからない
10. 地域の世話やきばあさん、おじさんの立ち話等対話集会
11. 私の地区は、町内会の下部組織体として「見守りネット」がある。民生委員も一員として活動している。前述したように、マンツーマンで約 150 名の方を支援している
12. ゆるやかな見守りのイメージ(組織、体制等)が明確でないが、現場サイドでは民生委員、社協福祉委員、地区のボランティアの協力のもと、少数の有志で守秘義務を守りながら自律的に活動が行われる体制が望まれる
13. 見守り隊は独自に数年後続けていただけるような隊員で組織し、民生委員はフォロー的な立場でいられたら活動がしやすいのかと思われる
14. 自治会の中に例えば環境、防衛部会があるように、自治会の一活動にできることが望ましい
15. 地区の中には必要としている人がいると思うがなかなか入りにくい。近所同士の付き合いも薄くなっているように思う
16. 施設に入った事を知らされず、ご近所の皆さんが心配になったことがあった
17. 民生委員と自治会の連携で、ゆるやかな見守り体制を定着化させたい。民生委員活動が地域に今まで以上に根ざし、住民に周知され見守り当事者周辺から情報が集約されやすくなることが望ましい
18. 佐倉市では民生委員の他に包括、子ども支援センター等サービスが充実していると思う。ゆるやかな見守り当事者に親戚等頼れる人がいない場合は必要でしょうが、当事者も民生委員や他人にはあまり話たがらないので孤立してしまう。特にアパートは必要
19. ご近所のゆるやかな見守りに期待したい。地域はみんなで助け合って連携をもって良い地域にしたい
20. 地区の総会の時に民生委員の活動を紹介すると共に、地域の方の異変の連絡により専門機関に繋げた事例をあげ、協力体制の必要をお願いしている
21. 新聞店や電力会社への民生委員名連絡先の開示をしてもよいのではないか
22. 民生委員または自治会にボランティアやその他の関係先の情報が一元化されるような連携がほしい(自治会の負担は増えるが)
23. 一番身近に住む自治会が積極的に取り組んでほしい。社協の方でも自治会長に働きかけていただきたい
24. 民生委員の見守り活動と地域のゆるやかな見守りの区別を明確にするべき
25. 見守りが必要な方のほとんどには、親しくしている友人や近所がいるので、その方に「一緒にサポートのお手伝いしましょうか」と声かけして情報を得たり、直接支援へ繋がっている。(近所の見守りはこちらから決めるのではなく、当事者が親しくしている人を見つける事が大切だと思う)・自治会見守り組織と情報共有。見守りが必要な方へは組織への登録を勧めている。・ボランティア配食サービスでは、民生委員に関わってもらい家族への連絡先になってもらっている。必要な時に、地域の高齢者見守り協力事業者との連携ができるよう包括が推進していただけたらと思う
26. 緩やかな見守りから発展させ自主防災会のような自治会組織にならないと安定した活動が難しいのではないかと。民生が中心にならなくても良い。民生が持っている個人情報はどう共有するのか
27. 緩やかな見守りから発展させ自主防災会のような自治会組織にならないと安定した活動が難しいのではないかと。民生が中心にならなくても良い。民生が持っている個人情報はどう共有するのか

28. 情報の速やかな交換や問題の把握により適切な対策が取れるようにする。包括が一番適していると思う為、そこに集約できると良いと思う
29. 担当地区での民生委員の存在が明確に認識されていないのが現状。基本的には隣近所のお付き合いの中で昭和初期のような近所付き合いが構築されれば事は足りると考える。その中で民生委員との連携が成り立っていけばと思う
30. 守秘義務を遵守しながらも見守り地区内の情報は常にアンテナを高くしておき得るように努力し、住民行政、関連機関とのコミュニケーションを取っておくことが大切と考える。隣近所の地区の方から自地区の住民の情報入手というのは過去なかったと思う。やはり住民の方も自地区の情報は自地区の民生委員に入ってくるのが通常の流れだが、自宅を取り巻く近隣住民が誰なのか、高齢者はいるのかも分からない現状。最近では引越してきて近所にあいつ回りもしないうちに、何となく生活が始まっていることに驚くことがある。せめて隣近所くらいは連携をとりたい
31. 色々な方がいるので相手の望む方向で応じ無理強いはしない。地元の人との協力がなくては無理。下志津は古村独特の風習、伝統などもあり難しい点もある
32. 古くからの住人は近所づきあいがあることが多いが、アパートの住人は近所づきあいが少ない。しかし最近近隣では独居高齢者のアパート住まいが増えている。アパート住人は地域の専門機関や民生委員を知らない事が多い
33. 個人情報共有して、民生委員を中心とした、自治会町内会(担当役員:福祉担当)地区社協との三者一体の連携で、佐倉市、包括等の専門機関に繋ぐ体制を構築する。佐倉市社会福祉協議会が指導する。新たに「地域のゆるやかな見守り支援員」の設置は、必要ないと思う
34. コロナで室内での活動は難しいので自治会館に花を植える活動を少しずつやっつけていこうと思う。また、防災委員会の安否確認活動の際に、見守り(高齢者要支援者)の方々に活動をどう感じたかなどの電話での聞き取りをしている
35. 隣近所、自治会及びその班、地区社協、民生委員が連携して見守り組織を多くつくり、1人も見逃さない地域のゆるやかな見守りを実施する
36. 民生委員の担当する地区の福祉員と協力して見守る事により、社協との繋がりができていけると思う
37. 現状システムを最大限利用することを考える。一斉実施せず、できる地区からやる
38. 近所の全てを把握できるわけでは無いため、近所に見守りが必要な方がいたら連絡してほしい
39. 市の積極的な支援
40. 訪問した際、留守でも日々の状況を教えてもらいたい(隣近所の方)
41. 日頃の防犯活動等の繋がりの延長線上にあること
42. 自治会の中で、お互いに、報告、連絡、相談をしながら、支援者にとって一番良い方法を一緒に考え、役割分担しながらサポートしていけたらと思う。高齢化が益々進む中で、一人ひとりの対応も必要ですが、歩いて集まれる居場所がとても大事な役割だと思います。集まってくる人たちがみんなのことを気に掛け続けてこない人を訪問する。ここでは繋がりのやお互いさまの関係ができる
43. 民生委員との連携ができる人が良い。自治会があればその中から協力者を募集する
44. 仕事で電話に出られないこともあるので、その場合、連絡を受けるところをつくっておいて頂きたい
45. 異常に早く気づくのは第一に隣近所の人。近所のつながりが最も重要と考える。(隣近所の人たちのコミュニケーションが一番重要。何かあればすぐに気づく)

46. 終息の見えないコロナ渦での生活様式に対応していく必要がある。(感染予防、特殊詐欺)

#### 4 その他、ご意見やご提案がありましたらご記入ください。

##### 自由意見

1. 台風、地震など大きな災害を考えて活動したいと思う
2. 働いているため朝のあいさつボランティアの時の会話、学校長が毎朝顔を合わせるため父母の方も何人か顔見知りになり情報を聞くことが私ができる大切な一つ
3. 親切の押し売りはありがた迷惑なときもある
4. 地域によって民生委員が担当する家庭数は違ってくと思う。多いと1人では対応できないケースも出てくるかと思う。それなりに努力はするが、皆さんの多くの手をお借りしながら見守りを続けていきたい
5. 緩やかな見守りに協力いただける隣近所の方が活動に協力いただけるとうれしい。見守りが必要な方は既に実施されていると思う
6. サロンやイベントを楽しみにしている高齢者からは寂しいとの声があり残念な状況。室内での集まりは当分難しいと思うが、屋外での活動が何かできないものかと期待する
7. 見守るという言葉通り、おしきせではなく気にかける事が大事。時間がある限り住宅周辺的环境等の変化を見ておくことも大切だと思う
8. 皆さんやっていると思うが、地区組織や子供会、高齢者クラブ、地域のサークル活動等にまめに顔を出しておくとき折情報を頂く事が多いと思う
9. 地区の民生委員同士の会合を持ちたい
10. 民生委員になったばかりでよくわからないが、見守り活動を推進して困っている人をサポートし、救済する体制を強化する必要があると思う
11. 見守りや訪問がどこまで立ち入るべきか線引きが難しい
12. マンションが対象になっているが、マンションの管理人が住民の個人情報をつたてに話をしてくれない。常時ヘルパーを頼っている人の情報をヘルパーと共有したい
13. これからはもっと1人暮らしの高齢者が増えると思う。地域、近所、民生委員と連絡を取り合って見守っていかねばならないと思う
14. 対応が後出に回っているので、スピード感を持って進めてもらいたい
15. せっかく名簿をもらっても、電話番号が入っておらず、コロナ渦の中、訪問が行く方も来られる方も気遣う中、例えば何歳以上になるか、開示してもいい人？市として対応してもらおうべきと思う
16. 高齢者福祉課から「75歳以上の高齢者名簿」をもらって1人暮らしの人はだいたい把握できるが、65歳以上はわからない。先日、包括主催の研修があり、ケアマネの方が世話をしている事例が報告された。その人は自分の担当地区の人で1人暮らしだったが75歳未満だったため全く知らなかった。65歳以上の人を全部知らなくても良いが、1人暮らしの人だけは把握したい
17. 移動サービスの拡充、オープン化、頼みやすさ
18. 近隣地域で行われている見守り事業の活動状況について教えてほしい

19. これから高齢になる事が分かっているのに、町内会組織から脱退する一戸建ての家も多くなっている。希望としては、各地区からの委員が積極的な活動が行えるような町内会になってくれればと思う
20. 民生委員や地区社協、福祉委員などがおり、それをネットワーク化することで対応できると思う。近隣関係を良好にすることで現制度の福祉関係者とのコミュニケーションが十分に取れると思う
21. 日常生活に必要な食材の買い物等の支援でスーパーへの買い出しに月や週に何回かワンボックスカー等の車を出して高齢者支援を行ったら良いと思う。市社協と行政で話し合って実行して頂きたい
22. 過去の活動で、独居・認知症で生活上大変な状況に遭遇した事例があり。なぜ周囲がもっと早く気付かなかったのかと痛感した。ゆるやかな見守り活動について、特定の問題を有す方を継続的に見守るという視点に加え、周囲が初期に気付くことで問題を大きくしない配慮、ゆるやかな見守り体制がこのように2本柱として、この地域にゆるやかな見守り制度の定着が大切に思う
23. 民生委員のなり手がなかなかいないのが不安。市の働きかけが不十分なのでは。頻繁に区長、町会長を呼び出して説明してもらいたい
24. 現在の住民の中で活動できる人は共働き場多く、生活リズムの違いから、近所の人にそれほど興味があるようには思われない。新しく引っ越して来た人も共働き。最近では子どものいる人たちはPTAの繋がり以外は関心が無いと思われる
25. 緩やかな見守りが必要と考えるようになった経緯。(例えば1人暮らしの後期高齢者の人数の増加。見守り時のトラブル。)を説明してほしい
26. 高齢化が進み、高齢化率が50%を越え、75歳以上の方が250人、75歳以上の独居も30人以上(内男性11人)の450世帯の地域。介護保険サービスや福祉サービス(配食や支えあいサービス)を利用、長年暮らしている方が多いので、近隣の方々の見守りや手伝いも多く有り、上手に暮らしている方が多いと感じている。しかし、支える側も高齢、見守りが必要な方も年々更なる支援が必要となってきた。地域資源を活用して1人ひとりができる事を出し合っ、少しでも住み慣れたところで暮らしていきたいとの思いを続けていける仕組みを考えていかなければならないと思う
27. 高齢者の増加が著しい作今、民生委員の善意だけで事業が続けられないのが現状。体調を崩しながら欠員地区を担当している仲間を見ていると違和感を感じる。欠員分を行政が肩代わりできるならお願いしたい。それが無理なら各自治会に地域住民は自治会が見守る世の中にしていくことを市の考えとして強かに発信してください。民生委員が必要のない社会が望ましいと考えている
28. このアンケートの趣旨がよく分からない部分がある。1年間の活動を通して一番感じたのは、まだ介護保険の世話にはならないが体力、記憶等の衰えを感じる中で日常生活の不安を感じ出している方が多いと思った。今はコロナで行動できないが、住民の方と一緒に何らかの集いを考えて、包括の方と情報交換している
29. 民生委員が75歳以上の高齢者全員を見守る事は困難。そこで全員を見守るのではなく、同居者がいない1人で生活している高齢者のみを把握し1人暮らしの高齢者を対象のみ見守る事を徹底していただきたい。今後、電話等で対応するために1人暮らしの高齢者のみの電話番号を把握していただきたい。訪問する前に状況確認を電話にて把握する(システム様式)に変えて見守り活動とすべき
30. 今はコロナだから自粛ムードなので活発にはできないが、もっと家の外に出て公園などに集まり、ドリンクを、会話を楽しんでほしい。同地域の住民ならば「おはよう」「お帰り」など声を掛け合いたいもの

31. フェイスガードや消毒液を支給して欲しい。活動費の増額。不在地区を担当していますが、早く担当者を見つけて下さい。マンションなので、開けて貰えない事が多い
32. 途中に■■■■地区社協から■■■■地区社協に変わり、■■■■に■■■■の成り立ち、歴史等が違うので難しい面があり、違和感がある人も多く見受けられる。お互いに理解できない面がある
33. 自治会の強い所、社協の強い所、地域の差はあると思うが自治会、社協組織が連絡を取り合える事が大切だと思う。民生委員とその役の中に入って活動できる事がベストだと思う
34. 各自治会町内会の事情を考慮し、佐倉市社会福祉協議会が継続して指導していけば、改めて「見守り活動支援員」を設置する必要はないと考える。各自治会町内会の同意・協力、連携は必須である
35. 自治会は名ばかりで、持ち回りの役員は、なるべく何もしないで一年が終わればいいと思っている。なにか新たな取り組みを提案する人間がいると浮いてしまう。それでも戸建住宅で自治会に加入している住人についてはある程度顔見える。しかし、世帯の半数を占めるアパートの住人は誰一人自治会には加入しておらず、周辺との接点も無い。表札も出ていないし、訪ねても出てこない。このような現況では住民の状況をより把握しているのは行政や介護保険関係機関ではないか。見守りをとやかく言うよりも、どうすれば支援が必要な場合に自ら助けを求められるようにするかを考えた方がよいのではないか
36. 地域のパイプ役として行政につなげても市の担当者の誠意が見られない。対応が多い民生委員への依頼は多いが何事もアンケート止まりでその先(行動)を見たことが無い
37. いつもの活動で繋がりがあれば、特別なことは必要ないように思われる
38. どの地区も高齢化が進み、民生委員だけでは見守りきれない現状にあります。また、民生委員においても、仕事量も増え、全国的に民生委員のなり手不足が問題になっており、民生委員もこの見守り事業については必要と感じています。今回、見守り活動をスタートするにあたり、昨年の事業をゼロベースにして、まずは、日頃、見守り活動を実施している団体にきちんと説明をして、地域の実情把握に努め、連携しながらの再スタート、今後に繋がり、とても良かったと思う
39. コロナ渦の中、対面活動をなるべく避けるよう云われているのに、友愛のお茶を配る事に疑問を感じた
40. 大切な事業なので市役所担当課長と緊密に連携を図って頂きたいと思う
41. サロンなどが情報交換する場がない(高齢の方を日頃見ている)手挙げ形式で見守りの方を決めると見守りにあわない方が出る可能性がある。見守りの方には研修会を開いてほしい。アンケートをもとに民生員からの聞き取りが必要だと思う
42. IT装置の有効活用
43. 民生委員ということで過度に期待され、肩の荷が重くなりすぎる事がある。そのようなときに専門機関の方が話を聞いてくださって助かった
44. 在来地区ではご近所との関係も良好であり、見守り、助け合いが日常行われている。新興住宅地では今更ながら難しい。それをあえてつくる仕組みが必要であると思う
45. 佐倉市の福祉課より自治会長へ民生委員と協力するよう指導してほしい